

永遠の真理

ETERNAL TRUTH

「すべてのことについて、
わたしたちと同じように誘惑に会われた」

2011 年 10 月

「光のうちを歩む」 「黙示録 18 章の御使と 1888 年のメッセージ (Ⅷ)」 「タコライス」

永遠の真理

いま永遠の真理の土台の上に堅く立ちなさい。(3T p.45)

目次

今月の聖書勉強

「すべてのことについて、わたしたちと同じ
ように誘惑に会われた」 4

朝のマナ

「光のうちを歩む」 9
神のみかたちを回復する

現代の真理

「黙示録 18 章の御使と 1888 年のメッセージ (Ⅷ)」 41
The Good Way Series

力を得るための食事

「タコライス」 44

お話コーナー

「わたしは自分のみ父を知っている」 46

教会

【正丸教会】

〒 368-0071 埼玉県秩父郡横瀬町芦ヶ久保 1607-1
電話：0494-22-0465
FAX：0494-26-5059

【高知集会所】

〒 780-8015 高知県高知市百石町 1-17-2
電話：088-831-9535

【沖縄集会所】

〒 905-2261 沖縄県名護市天仁屋 600-21
電話：0980-55-8136

アクセス

ホームページ：<http://www.4angels.jp>
メール：support@4angels.jp

発行日 2011 年 9 月 30 日
編集&発行 SDA 改革運動日本ミッション
〒 368-0071 秩父郡横瀬町芦ヶ久保 1607-1

イラスト：comstock.com p.1; Gettyimages p.1;
Sermonview p.9

これが小羊イエスの怒りである

神の愛は人類のためにはかり知ることのできないほど深く動かされたのに、これほど大きな愛を受けている者たちに表面的な感謝しかないのを見て、天使たちは驚く。天使たちは、神の愛に対する人々の浅薄な認識に驚き、天は、魂に対する人々の無関心さに憤慨している。そのことについてキリストがどう思っておられるか知りたいだろうか。父母は、自分の子供が寒さと雪の中に行き暮れているのに、それを救えたはずの人たちからみすごしにされ、死ぬがままにほうっておかれたことを知ったらどう思うだろうか。彼らはひどく悲しみ、狂気のように憤慨しないだろうか。彼らはその涙のように熱く、その愛のようにはげしい怒りをもって、そうした殺人者たちを攻撃しないであろうか。ひとりびとりの人間の苦難は神の子の苦難であって、滅びつつある同胞に助けの手をさし出さない人々は神の正義の怒りをひき起こすのである。これが小羊イエスの怒りである。……

弟子たちにお与えになった任務の中に、キリストは、彼らの働きのあらましを述べられたばかりでなく、彼らのメッセージもお与えになった。「あなたがたに命じておきたいすべてのことを守るように教えよ」とキリストは言われた（マタイ 28：20）。弟子たちはキリストがお教えになったことを教えるのであった。キリストがご自身の口を通してばかりでなく、旧約のすべての預言者たちと教師たちを通して語られたことがここに含まれている。人間の教えは除外されている。……

福音を、生命のない理論としてではなくて、生活をかえる生きた力として示さねばならない。神は、ご自分の恩恵を受ける者たちをその力の証人にならせようと望んでおられる。……。人類が神のむすこ、むすめとしてその聖なる特権を回復し、復帰するまで神は満足することがおできにならないということについて、われわれにあかしをたてさせたいと神は望まれる。（各時代の希望下巻 375, 376）

受肉—キリストの性質

「すべてのことについて、 わたしたちと同じように誘惑に会われた」

人間の墮落後、人間は神の律法を守ることができないことが証明されたと、サタンは宣言した。そして、彼は自分と共に、宇宙にこれを信じさせようと努めた。サタンの言葉は真実なように見えた。そしてキリストは欺瞞者の仮面を取り去るために来られたのである。天の全能者は、人間の訴訟を引き受け、人が得ることのできる同じ便宜をもって、人がサタンの誘惑に耐えねばならないように、それらに耐えて下さった。これが、墮落した人間が神性にあずかる者となることのできる唯一の道である。人性を取ることに、キリストは人の試練や悲しみやからみつゝ誘惑を理解するのにふさわしくなされた。罪を知らない天使たちは、人間特有の試練に同情することができない。キリストは人間の性質を取るところまでへりくだられ、わたしたちと同じようにすべてのことについて誘惑に会われた。それはこのお方が誘惑されているすべての者をどのように救うことができるかを知ることができるためであった。

人性を取られることによって、キリストはすべての人間にあずかられた。このお方は人類の頭であられた。神性と人性のお方は、ご自分の長い人間のみ腕をもって人類をいだき、もう一方のご自分の神のみ腕をもって無限のみ座をつかむことがおできになった。

これは天がながめるなんという光景であったことだろう！ほんのわずかの罪や汚れのしみも知らなかったキリストが、退廃した状態にあるわたしたちの性質を取られた。これは、有限な人間が理解できるよりずっと大きなへりくだりである。神が肉において現れた。このお方はご自分をへりくだらせた。なんという思考のための主題、深く真剣に熟考するための主題であろう！非常に無限で偉大な天の全能者であられたお方が、このお方の尊厳と栄光をほんの一分子さえ失わずに、非常に低く身がかがめられた。このお方は人間で貧困と最も深い屈辱にまで身がかがめられた。わたしたちのためにこのお方は貧しくなされた。それはわたした

ちがご自分の貧しさを通して、富んだ者となれるためであった。『きつねには穴があり、空の鳥には巣がある。しかし、人の子にはまくらする所がない』とこのお方は言われた (マタイ 8:20)。

キリストは侮辱とあざけり、軽蔑と冷笑に甘んじられた。このお方は愛といつくしみ深さと憐れみに満ちたご自分のメッセージが、誤り伝えられ、誤用されるのをお聞きになった。このお方はご自分が神の御子であられることを証したために、悪魔の君と呼ばれるのをお聞きになった。このお方の誕生は超自然的なものであったが、ご自身の国民、すなわち霊的な事柄に対して自分たちの目を見えなくしてしまった人々は、それをしみであり、汚れであるとみなした。わたしたちのにがい苦悩の一滴でも、このお方の味わわれなかったものはない。このお方の耐えられなかったわたしたちののろいはひとかけらもない。それはこのお方が多くのむすこ娘たちを神の許へ連れて行くことができるためであった。

イエスがこの地上で悲しみの人で病を知っておられたという事実、墮落した人間を永遠の破滅から救うために、天の家を後にされたという事実は、わたしたちのあらゆる誇りを地に伏させ、……わたしたちのあらゆる虚無に恥をこうむらせ、そしてわたしたちに自己満足の罪を明らかにすべきである。罪深い人間の必要、試練、悲しみ、また苦しみをご自身のものとしておられるこのお方を見よ。わたしたちは、神が罪の結果のうちに、これらの苦しみと魂の傷を耐えられたという教訓を心に受け入れることができないのであろうか。

キリストは、サタンとの争闘において、神が創造されたとおりの人は、御父と御子とつながることによって、神のすべてのご要求に従うことができることを示すために、人性を取り、人間の代表となって、この地に來られた。ご自分の僕を通してこのお方は次のように宣言しておられる、『その戒めはむずかしいものではない』 (ヨハネ第一 5:3)。人を自分の神から引き離したものは罪であり、この分離を維持するのも罪である。

エデンにおける預言

エデンにおける預言の中に言及された恨み (敵意) は、ただサタンと命の君の間に限られたものではない。それは万人に及ぶべきものであった。サタンとその使たちは、全人類の敵意を感じなければならなかった。神は『わたしは恨みをおく、おまえと女とのあいだに、おまえのすえと女のすえとの間に。彼はおまえのか

しらを砕き、おまえは彼のかかとを砕くであろう』(創世記 3:15)。

へびのすえと女のすえの間におかれた敵意は、超自然的なものであった。キリストにあっては、敵意はある意味で自然であった。別の意味では、人性と神性が結合していたために、超自然であった。そしてキリストがこの地の住民となられたときほど、著しいまでに敵意が発達したことはかつてなかった。キリストが憎まれたほど完全な憎しみをもって、罪を憎んだ者はかつて地上にだれもいなかった。このお方は聖天使たちに及ぶ、欺いて夢中にさせるその力をご覧になっていた。そしてこのお方のみ力がそれに立ち向かうために結集された。

キリストの純潔と聖潔、何の罪も犯されなかったしみのないこのお方の義は、好色と罪の世にあるすべての罪の上にくだる永続的な非難である。このお方の生涯において、サタンが世を取り巻いた道徳的暗闇のただ中に真理の光がひらめいた。キリストはサタンの偽りと欺きの性質を暴露され、多くの心の中の彼の墮落させる感化力を減ぼした。これがサタンをこれほどの激しい憎しみをもってかきたてたのである。墮落した彼の軍勢と共に、彼はもっとも精神的に戦争をかりたてようとした。なぜなら、御父の完全な代表者、そのご品性と習慣が、神を誤り伝えるサタンの陳述に反論するお方が世に立っておられたからである。サタンは自分自身の持っている特質のために神を責めた。いま、キリストのうちに、彼はこのお方の真のご品性一だれ一人滅びることなく、すべての人が悔い改めのうちにご自分の許へきて、永遠の命を持つことを喜ばれる、同情に満ちた憐れみ深い御父一が表されているのを見た。

強烈な世俗が、これまでサタンの最も成功している誘惑の一つである。彼は人の心と意思を非常に世の魅力に夢中にさせ、天の事柄のための場所がないようにしておこうとしている。彼は彼らの意思を世の愛のうちに支配する。地上の事柄が天の事柄に影を投げ、主を彼らの視野と理解力から追い出してしまう。偽りの理論と偽りの神々が真のものの代わりに大事にされる。人は世のきらめきと飾りに魅了される。彼らは地上の事柄にしっかりと執着するあまり、多くの人は何らかの世間的な優位性を得るためにはどんな罪でも犯すのである。

サタンがキリストを投げ倒そうとしたのはこの点においてであった。彼はこのお方の人性において簡単に打ち負かされるであろうと思った。「次に悪魔は、イエスを非常に高い山に連れて行き、この世のすべての国々とその栄華とを見せて言った、『もしあなたが、ひれ伏してわたしを拝むなら、これらのものを皆あなたに

あげましょう』(マタイ 4:8,9)。しかし、キリストは動かされなかった。このお方はこの誘惑の力を感じられた。しかし、わたしたちのためにこのお方はそれに相対し、勝利された。そしてこのお方は人間が正当に用いることのできる武器—力強い相談者なるお方のみ言葉—「と書いてある」だけをお用いになった(マタイ 4:4,10)。

なんという集中した関心をもって、天使や墮落したことのない諸世界は、この争闘で、律法の誉れが擁護されるのを見守っていたことであろう。ただこの世界のためばかりでなく、天の宇宙のために、争闘は永遠に決着した。闇の同盟もまた、背強者が「勝利」と叫び、そして世界とその住民が永遠に彼の王国となることができるために、神性と人性を持つ人類の身代わりに対する勝利の機会のきざしがないか見張っていた。

しかし、サタンはかかるとに届いたにすぎなかった。彼は頭にふれることはできなかった。キリストの死によって、サタンは自分が打ち負かされたことを知った。彼は全天の前で自分の真の品性がはっきりと表されたこと、そして神の創造された天の住民と諸世界は完全に神の側にいることを知った。彼は彼らに対する将来の感化力の展望が、完全に切り離されたことを知った。キリストの人性は永遠にわたって争闘に決着をつけた論点を示すのであった。

キリストの人性の罪の無さ

ご自分に墮落した状態にある人性をとりながら、キリストはほんのわずかと云えどその罪にあずからなかった。このお方は人間がとりこまれている虚弱さと弱さの下にあったが、「これは、預言者イザヤによって彼は、わたしたちのわずらいを身に受け、わたしたちの病を負うたと言われた言葉が成就するためである」(マタイ 8:17)。このお方はわたしたちの弱さを思いやり、すべてのことについて、わたしたちと同じように試練に会われた。それでいながら、このお方は罪を知らなかった。このお方は、『きずも、しみもない小羊』であられた(ペテロ第一 1:19)。サタンがほんのわずかでもキリストが罪を犯すように誘惑したなら、彼は救い主の頭を砕くことができたのである。実際には、彼はこのお方のかかるとに触れることができただけであった。キリストの頭に触れていたなら、人類の希望は消滅していたはずであった。神の怒りが、アダムの上に臨んだようにキリストの上に臨んだはずであった。キリストと教会は望みがなくなっていたことであろう。

わたしたちはキリストの人性の完全な罪の無さに関して、どんな疑念も持つべきではない。わたしたちの信仰は、完全な信頼のうちに、すなわち贖罪の犠牲を信じる十分で完全な信仰のうちにイエスを眺める知的な信仰でなければならない。これは魂が闇のうちに覆い隠されることがないために重要不可欠である。この聖なる身代わりは、極みまで救うことができになる。なぜなら、このお方はご自分の人性のうちに完全かつ完成されたへりくだりと、神のご要求への完全な従順を、驚く宇宙に提示されたからである。神の力が人間におかれているのは、世にある欲のもたらす滅びを免れ、神のご性質にあずかる者となることができるためである。これこそ、悔い改め、信じる人が、キリストにあつて神の義とされ得る理由である。

セレクトド・メッセージ 1巻 35 章 252-256

神のみかたちを回復する

Restoring the Image of God



10月 「光のうちを歩む」

無知な者への憐れみ

「町の中から死のうめきが起り、傷ついた者の魂が助けを呼び求める。しかし神は彼らの祈を顧みられない。光にぞむく者たちがある。彼らは光の道を知らず、光の道にとどまらない。」(ヨブ 24:12, 13)。

光を持っていない異邦人への神のテストは、真理と光の知識が豊かに与えられている者へのテストとは全く違う。このお方は、キリスト教国の者が捧げる場合には満足なされない義の一面を、異教徒の者からの場合はお受けになる。このお方は多く与えておられないところに多くを要求なさることはない。(バプトル・コメント[E.G. ホワット] 5巻 1121)

わたしたちは神のみ旨を行うという義務の下にいる。救い主はわたしたちのために働いておられ、天の宮廷でわたしたちのために絶えずとりなしをしておられる仲保者であられる。今にも滅びるばかりの者の叫びは、このお方の耳へ速やかに届く。「彼は乏しい者をその呼ばわる時に救い、貧しい者と、助けなき者とを救う」(詩篇 72:12)。わたしたちはこのお方が示して下さいた分野でこのお方のために働かないのであろうか。過ちを犯している人々に対し、キリストのような仲保者ではないのであろうか。

キリストは誘惑され、苦しまれた。それゆえサタンが滅ぼそうとしている誘惑された者にいつも同情なさる。このお方はあわれみ深く忠実な大祭司となることができ、すべてのことにおいてご自分が助けに来られた人々と同じようになられた。このお方は無知な者、道からそれている者に同情された。なぜならこの地上におられるときご自分は弱さに取り巻かれておられたからである。このお方はわたしたちが困惑のうちにあるとき助けることがおできになる。このお方がわたしたちのために働かれるように、わたしたちも互いのために働こう。仲間の働き人がわたしたちを完全に信頼するような方法で行動しつつ、彼らのために主の愛を表そう。

多くの者はわたしたちが想像する以上に、自分たちに差し出される助けの手を必要としている。思いやりと同情の言葉がのどの渇いた魂への一杯の冷たい水のように感じる者が多くいる。あなたは疲れ、失望している同胞を世話することによって、キリストに奉仕しているのであろうか。キリストは愛とあわれみのうちにわたしたちを助けてくださる。わたしたちは他の人々に希望と勇気の言葉を語ることによって、彼らにこのお方の恵みを与えないのであろうか。(パシフィック・ユニオン・レコーダー 1902年 3月 13日)

すべての者を祝福するための知識

「わたしの民は知識がないために滅ぼされる。あなたは知識を捨てたゆえに、わたしもあなたを捨てて、わたしの祭司としない。あなたはあなたの神の律法を忘れたゆえに、わたしもまたあなたの子らを忘れる。」(ホセア 4:6)

神は尊い光が出版物の中で明らかになるようにされたので、どの家族もこれらを所有し、読むべきである。両親がた、あなたがたの子供たちは天から与えられた光と正反対に進む危険があるのだから、それらの本を買うだけでなく、読むべきである。なぜなら、それらはあなたがたと子供たちにとって祝福となるからである。あなたがたは隣人に預言の霊を貸し、彼ら自身のために写しを買うようにと勧めるべきである。神のための伝道者であるあなたがたは、熱心で活動的な力強い働き人でなければならない。

多くの者は、神がご自分の民に与えておられる光と正反対に進んでいる。なぜなら彼らは注意、譴責、警告のうちに光と知識を含んだ書物を読まないからである。世の煩い(わづらい)、流行への愛、宗教の欠如が、神が恵み深くも与えてくださった光から注意をそらし、その一方で間違いを含んでいる書物や雑誌が国中を巡っている。無神論と不信仰があらゆるところに増えている。神の御座から来ている非常に尊い光は、柵の下に隠されている。神はこの怠慢に対してご自分の民に責任ありとされる。神がわたしたちの道に輝かしておられる光の光線一つ一つに対して、神に報告がなされなければならない。すなわち、物事においてわたしたちの向上のために生かしてきたか、あるいは傾向に従う方が楽なためにそれを拒んできたかのいずれかである。(教会への証 4 巻 390,391)

神の警告になんの注意をも払わずに見すごしてよいであろうか。奉仕の機会を活用しないでよいであろうか。世のあざけり、理性の誇り、人間の慣習や言い伝えの尊重などのために、キリストの弟子と公言する者がキリストに対する奉仕をしないでよいであろうか。キリストの弟子であると公言する者は、ちょうどユダヤの指導者たちがキリストを拒んだように神のみことばを拒むのであろうか。イスラエルの罪の結果は、わたしたちの前に明らかにされている。今日の教会は警告に従うであろうか。(キリストの実物教訓 286)

わたしたちは、まず真理の原則をへりくだった心で受け入れ、完全な従順のうちにそれらを成し遂げつつ、自分自身に注意を払うべきである。これが喜びと平安をもたらす。(教会への証 7 巻 270)

み言葉が責めることは何でも避ける

「耳をそむけて律法を聞かない者は、その祈でさえも憎まれる。」(箴言 28:9)

サタンはキリストに従う一人びとりの信仰を破壊しようとする。ある者にはほえたけるししのおとずれ、他の者には天使の衣を着て現れ、その声は抑えられてこの上なく優しいささやきである。わたしたちの唯一の安全は揺らぐことの無い信仰をもって神のみ言葉にすがりつき、み言葉が責めることは、何であつてもそれが外見上どれほど喜びを与えるものであつても、どれほどもつともらしい見せかけであつても即座に断固として避けることによる。

常に弱く、常に落胆する自称クリスチャンがいる。彼らは絶えず疑いに悩まされることを許し、自分たちは常にこの状態のままでいなければならないと考えているかのようである。このような人々は自分たちの危険に気づいてサタンのわなから抜け出す努力をするなら自由になることができる。彼らに自分の疑いを口に出すのを止めさせなさい。どの不信仰な言葉も疑いへの傾向を強め、他の人の思いに悪い種を植え付ける。わたしたちが蒔くために選んだ種は何であつてもそれを刈り取らなければならない。もし農夫が麦を蒔くなら、彼は麦を刈り取る。もし彼がアザミの種を蒔くなら彼の収穫はアザミだけになるのである。……

神は決して不信仰の言い訳をすべて取り除かれることはない。自分の疑いをつりさげるために留め金を探す人々はそれらを手近に見つける。信仰を鼓舞するよりは疑いを暗示するほうがはるかにたやすい。なぜなら生来の心は神に恨みを置いており、至高者のみ言葉を疑うよりは信じる方がより大きな努力を要するからである。そしてサタン自身が信仰を強めようとするものはなんであつても反対するからである。

疑いから自由になることを本当に願っているすべての者が追い求めなければならない一つの道がある。彼らは神のみ言葉によって禁じられている何かの放縦を大事にしているか、あるいはみ言葉に課せられている何かの義務を怠っている。自分が暗闇の中を歩いているとつぶやく者に、彼らの上にすでに輝いている光を心に留めさせよう。そうすれば彼らはもっと大きな光を受けるようになる。彼らにははっきりと理解しているどの義務でも彼らにさせなさい。そうすれば彼らは今疑っていることを理解し、行うことができるようになる。(サイン・オブ・ザ・タイムズ 1882年6月8日)

み言葉は真の交わりを鼓舞する

「神と交わりをしていると言いながら、もし、やみの中を歩いているなら、わたしたちは偽っているのであって、真理を行っているのではない。しかし、神が光の中にいますように、わたしたちも光の中を歩くならば、わたしたちは互に交わりをもち、そして、御子イエスの血が、すべての罪からわたしたちをきよめるのである。」(ヨハネ第一 1:6,7)

もし神の民がこのお方のみ言葉を感謝するなら、わたしたちはここ地上の教会の中に天国を持つべきである。クリスチャンはみ言葉を探ることに飢え渴き、熱望するはずである。彼らは聖句と聖句を比べ、み言葉を瞑想することをいつも切望しているはずである。新聞や雑誌、あるいは小説よりもみ言葉の光をもっと熱心に求めるはずである。彼らの最大の願いは神の御子の肉を食べ血を飲むことであるはずである。そして結果として彼らの生活はみ言葉の原則と約束に一致するものとなるはずである。その教えは彼らにとって命の木の葉のようであり、彼らの内で永遠の命に湧き上がる水の井戸となるはずである。恵みの回復させる雨は彼らにすべての労苦や疲れを忘れさせながら、魂を新たに生き返らせる。彼らは靈感のみ言葉によって強められ励まされる。

牧師たちは神聖な信仰を吹き込まれ、彼らの祈りは真理の神々しい保証に満たされた熱心さによって特徴づけられる。疲れは天の陽光の中で忘れられる。真理は彼らの生活の中に織り込まれ、その天来の原則は、清水の流れる小川のように、絶えず魂を満足させるものとなる。

主の哲学はクリスチャン生涯の規則である。全存在は天の命を与える原則を吹き込まれる。非常に多くの人の時間を消費してしまう多忙な雑用は、聖化させる健全な聖書の敬虔の前に彼らのしかるべき立場のうちに縮小される。

聖書、聖書だけがこのよい結果を生み出すことができる。それは神の知恵であり神の力であって、受容力のある心に全力で働く。ああ、もしわたしたちが自分の意志を神の意志に一致させるなら、わたしたちはどれほどの高さに到達できることであろうか。わたしたちがどこにいても必要としているのは神の力である。(教会への証 8 巻 193,194)

光のうちを歩むとは愛すること

『光の中にいる』と言いながら、その兄弟を憎む者は、今なお、やみの中にいるのである。兄弟を愛する者は、光におるのであって、つまづくことはない。」(ヨハネ第一 2:9,10)

わたしたちはすべての利己心を捨て去り、愛と一致のうちに共に働かなければならない。わたしたちは自分を愛し、甘やかし、強情であることを弁解してきた。しかし、自分ほどには落ち度のない兄弟たちに対しては憐れみがなかった。主は、わたしたちが主に感謝せず、主の憐れみを忘れて、悪い心を起こして信じていないときでさえ、わたしたちを愛し、わたしたちを忍んで下さる。しかし、兄弟がた、考えてみなさい。わたしたちは互いにどれほど容赦なく、憐れみのない者であろうか。キリストがわたしたちを愛して下さったようにわたしたちが互いに愛すべき時に、どれほど互いに傷つけ、痛みを与えていることであろうか。完全な変化をもたらそうではないか。愛という尊い植物を培い、互いに助け合うことを喜ぼうではないか。わたしたちはお互いの過ちに寛大で自制心があり忍耐強くなければならない。自分自身に対しては鋭い批判をし続けなければならないが、兄弟たちにはすべてを望み、すべてを信じなければならない。

あなたがたのある者は罪の許しを、すなわち神にある自由を熱心に求めているように見える。あなたは自分が求めている許しを受ける価値があるのであろうか。否、あなたにはない。それにもかかわらず、神はそれを無償で与えたいと望んでおられる。それでいながら、あなたは許しと愛情を受ける価値がないと思う兄弟にそれらを与えずにおくのであろうか。あなたは神にあなたをこのように扱ってほしいのか。神に自分を扱ってほしいように、あなたの兄弟を扱いなさい。もしわたしたちが許しを求める自分の祈りが聞かれるのを期待するのであれば、わたしたちは許しの精神でそれらを提供しなければならない。わたしたちは同じ態度で、同じ程度に他の人々を許さなければならないが、それはわたしたち自身が許されることを希望するからである。自称クリスチャンが互いに表す冷酷さはキリストに似ているのではなく、サタンの香りがする。わたしたちは一人ひとりイエスの愛に心を大きく開いて、兄弟へのあわれみと愛情を強めなければならない。

「キリストがわたしたちのために死なれた」のは「わたしたちがまだ罪人であったとき」であった(ローマ 5:8)。わたしたちに対する受ける価値のない者へのお方の愛とあわれみを考えるとき、わたしたちはどうして敵意、もしくは不親切な気持ち一つでさえ、このお方の血で買い取られた兄弟に対して心に抱いていることができるであろうか。(福音伝言者 429,430・1892 年版)

わたしは死から命へ移ってきたか

「わたしたちは、兄弟を愛しているので、死からいのちへ移ってきたことを、知っている。愛さない者は、死のうちにとどまっている。」(ヨハネ第一 3:14)

わたしたちの最悪の敵、わたしたちに害を加えようとする者に対してさえもすべての疑いと憎しみ、そして悪意のあるすべての感情を捨て去ろう。しかし兄弟たちよ、あなたがイエスのところに来る前に、心があなたの兄弟と調和するまで待つてはならない。なぜならあなたに勝利を与えるのは、あなたの内で働いているこのお方の御霊と力だからである。

多くの者がうぬぼれで満たされており、自分を兄弟より上であると考えている。そのような者は自己に死ななければならない。肉の思いを十字架につけよう。もしあなたが心に恨み、疑い、うらやみ、嫉妬心を持っているなら、あなたにはすべきことがある。あなたの罪を告白し、兄弟と和合しなさい。彼らのことを良く話しなさい。好意的でない暗示、他の人々の思いに不信任感を起こさせるようなほめかきを捨て去りなさい。あなたが自分の評判を守りたいと思うのと同じ厳粛さで、彼らの評判を守りなさい。あなたがイエスに愛されたいと思うように彼らを受しなさい。彼らの利益のために労しなさい、彼らの破滅の上に自己を築き上げようと、彼らの利益を台無しにしようとする代わりに。サタンは兄弟を告発する者であり、あなたに自分の手助けをさせることを好むが、彼を失望させなさい。あなたに対してサタンに勝利を許してはならない。

ある者は遠慮なく言い、ぶっきらぼうで粗野なことを自慢し、それを率直と呼ぶ。しかしこれは正しい呼び方ではない。それは最も手に負えない悪質の利己心である。このような人々に徳があるかもしれない。気前が良く、親切な一時の感情があるかもしれない。しかし、彼らの無作法な態度は、ほとんど彼らを耐えがたい者とする。彼らは批判し、傷つけ、不愉快なことを言う。彼らが培っている品性はイエスを表すであろうか。それは彼らを天の社会にふさわしくするであろうか。わたしたちは自分がどのような態度の精神を大事にしているのかを知るために、自分自身をよく吟味しよう。最もつらい状況にあっても優しく静かに語ることを学ぼう。自分の言葉だけでなく、思いや想像も支配しよう。言葉においてもふるまいにおいても親切で礼儀正しくあろう。この配慮に大きな怠慢がある。わたしたちは自分たちがなり得る者にも、神がわたしたちにならせたいと思っておられる者にもなっていない。(福音宣伝者 430,431)

だれもすべては知らない

「もし人が、自分は何か知っていると思うなら、その人は、知らなければならぬほどの事すら、まだ知らない。」(コリント第一 8:2)

もし聖書の中に理解するのが難しいものが何もないならば、そのページを探るのに、人は自尊心と自己称揚のうちに高ぶるようになるであろう。人にとって自分が真理のどの面も理解していると考えるのは決して最善ではない。なぜなら彼は理解していないからである。それならば、だれも自分が聖書のすべての部分を正しく理解しており、自分が理解しているのとまったく同じように、他の人にも理解させるのが自分の義務であると感じて、自分をおだてないようにしよう。知的自尊心は払いのけよう。霊的自尊心のどの類に対しても、わたしは警告の声を上げる。この自尊心は今日の教会の中にたくさんある。

わたしたちが今大切にしている真理が、初めて聖書の真理としてあらわれたとき、それはどれほど奇妙なものに見え、またわたしたちがそれを初めて人々に示したとき、どれほど強い反対に会わなければならなかったことか。しかし、従順で真理を愛する働き人たちは、どれほど熱心でまじめであったことか！わたしたちは本当に特殊な民であった。わたしたちは数が少なく、富がなく、世的な知恵も、世的な名誉もなかったが、それでもわたしたちは神を信じ、強く、成功し、悪を行う者には恐怖であった。互いへのわたしたちの愛は堅固であり、たやすくふるわれなかった。そのとき神の力がわたしたちの間にあらわれ、病人は癒され、そこにとても静かな気持ちのよい聖なる喜びがあった。しかし光が増し加わっていったが、教会は比例して前進していかなかった。純金は次第に光沢がなくなり、死んだような無気力と形式主義が入り込み、教会の精力を鈍らせた。彼らの豊かな特権と機会は神の民を純潔と聖潔へと前進、向上させなかった。神が彼らに委ねておられたタラントを忠実に活用するなら、それらのタラントを大いに増すのである。多く与えられたところには多く要求される。神がわたしたちに与えておられる光を忠実に受け入れ感謝する者だけが、克己と自己犠牲のうちに気高く高潔な立場をとる者だけが、世に対する光の通路となる。(教会への証 5 卷 533,534)

神の譴責で方向を変える

「思慮のない者たちよ、あなたがたは、いつまで思慮のないことを好むのか。あざける者は、いつまで、あざけり楽しみ、愚かな者は、いつまで、知識を憎むのか。わたしの戒めに心をとめよ、見よ、わたしは自分の思いを、あなたがたに告げ、わたしの言葉を、あなたがたに知らせる。」(箴言 1:22,23)

前進しない者は、天のカナンの境界線上にいてさえ、後退する。わたしたちの信仰と働きが、委ねられた真理の光に少しも見合っていないことがわたしに示された。わたしたちは気乗りのしない信仰を持つのではなく、愛によって働き魂を清める完全な信仰を持たなければならない。(教会への証 5 巻 534)

わたしたちは神の御旨を行うことの中で持っている光すべてに従って生きることにより、聖書の真理を学ぶことができる。さもなければ他の多くの者がしているように、自分たちの確信をあいまいにし、ゆがめ、不従順によって自分たちの信仰を墮落させる。人々は神の偉大な道徳の義の基準から外れ、それが「聖であり、正しく、善なる」ものであることを疑おうとする。彼らは罪を犯す自由を望み、ついには律法の要求に拘束力があることを疑うところまでくる。なぜなら彼らの肉の心はその教訓に違反することを望み、神の律法は彼らにとって奴隷のくびきとなっているからである。

そのような者はその後何かに失望し、真理に帰ってくるかもしれないが、再びそれから離れる。なぜなら彼らの心は完全に変えられていないからである。世界で最も有益な人々は、社会でもてはやされ甘やかされて、高ぶったうぬぼれの強い人々ではなく、へりくだって神と共に歩む人々、その態度がでしゃばりでなく会話が誠実な人、すべての栄光を神に帰し、少しも自分のものにしない人々は、最も明確かつ健全な感化力を教会に及ぼしている人々である。彼らが神の代弁者として人々の前に立つとき、彼らのまわりにあるものは一切忘れられる。彼らの言葉は、御霊の表れのうちに力を伴って出てくる。彼らは、それが彼らを友とするか敵とするかはともかく、教会に物事を整然と定めるために神がお与えになった能力を表す。罪と悪を譴責する際に、率直で厳粛な証が必要となるとき、たとえ地位の高い人々に対しても、彼らはだまっていることなく、真理の神の指示に注意を払うのである。(ビュー・アソド・ヘラルド 1888 年 9 月 4 日)

どのように聞き従うか

「思慮のない者の不従順はおのれを殺し、愚かな者の安楽はおのれを滅ぼす。しかし、わたしに聞き従う者は安らかに住まい、災に会う恐れもなく、安全である」。
(箴言 1:32,33)

神のみ言葉の真理は重い耳に、頑固で感受性の鈍い心に語られる。これらの自称クリスチャンによって未信者に与えられた印象は、キリストの宗教は少しも好ましいものではない。これらの鈍く不注意な者は、世の事業に携わるときには、野心と熱心さを表すが、永遠の重要性に関わることには、世的な事柄に示すほど没頭せず、関心を示さない。神の使者を通して聞くこのお方のみ声は快い歌であるが、その聖なる警告、譴責、励ましには注意が払われない。永遠で聖なる事柄は普通の事柄の水準に置かれている。聖霊は悲しんでおられる。キリストは「どう聞かかに注意するがよい」と言われた(ルカ 8:18)。彼らは働きに心あらずの状態で神を礼拝すると公言する、霊的に死んだ者である。イエス・キリストの牧師を励まし、その手を支えるために、心の温かいはつきり目覚めた教会がなければならない。

真理を信じると公言する民は、わたしたちの信仰の証拠に精通しているかもしれないが、世の面前でその葉を見せびらかす、うぬぼれたいちじくの木のようなものである。しかし主人であるお方によって調べられるとき、実のないことが分かる。実を結ぶクリスチャンは神とつながっており、神の事柄において知的である。真理と神の愛を、瞑想する。彼らは命のみ言葉を大いに楽しんでおり、講壇から語られるみ言葉を聞くとき、エマオへの途上でキリストがご自身に関して彼らに預言を説明されたとき、二人の弟子がそうであったように「道々お話しになったとき、また聖書を説き明してくださったとき、お互の心が内に燃えたではないか」と言うことができる(ルカ 24:32)。

光とつながっている者は皆、世に彼らの光を輝かせ、心から神に向かって感謝の気持ちがあふれ出て、自分たちの証の中で、神をたたえる。キリストと生きたつながりのある者は、このお方の愛の確証のうちに喜ぶ。(ビュー・アンド・ヘラルド 1880年1月1日)

そむくことの危険

「しかし、もしあなたが心をそむけて聞き従わず、誘われて他の神々を拝み、それに仕えるならば、わたしは、きょう、あなたがたに告げる。あなたがたは必ず滅びるであろう。あなたがたはヨルダンを渡り、はいって行って取る地でながく命を保つことができないであろう。」(申命記 30:17,18)

落ちつきのない、押し寄せるような人類の大多数は、自分たちの創造主を忘れてしまった。神の律法の違反は、わたしたちの世界に不一致、不幸、荒廃をもたらした。そしてまだ彼らはその盲目と狂乱状態の中で違反を続けている。彼らは、神にある平安を見出すようにと招いてくださるこのお方のみ声に聞き従うのを拒む。諸王、政治家、地上の有力者は魂に平安と休息を与えるには無力である。真の幸福を見出すことができるのは、ただ神の律法への従順においてのみである。もしわたしたちが自分の魂に神の神聖な永遠の一致を持ちたいのなら、わたしたちの意志をこのお方に明け渡さなければならない。(ヒストリカル・スケッチ 187)

今日〔神は〕ご自分の民の純潔を保つために新しい計画を設けてはおられない。このお方は、古代のように、その御名を公言する罪を犯した者に、彼らの悪の道から離れ、悔い改めるようにと嘆願しておられる。そのときと同じように今もこのお方はご自分が選ばれた僕の口を通して彼らの前にその危険を預言しておられる。このお方は警告を発し、罪を戒められる。……しかし現代のイスラエルには古代イスラエルのように、譴責をあざけり勧告を憎む同じ誘惑がある。彼らは、神が真理を公言する人々の益のためにご自分の僕に与えておられるみ言葉に対して、あまりにもしばしば聞く耳をもたない。(教会への証 4 巻 165)

自分たちのテストと試練のときに聞くのを拒む者は、彼ら自身の邪道の結果に直面しなければならない。彼らは地の宝をひたむきにつかみ、その榮譽と快楽を求めることはできるが、書き物が開かれ、一人ひとりがなした自分の働きによって報いを受けるときに、その判決はどのような光景であろうか。

魂の価値はカルバリーの十字架によって評価される。主はそのためにご自分が死なれた魂の価値をお認めになり、彼らをご自分の王国の臣民になることを望まれる。しかしこの世の神は、人々が自分の危険を見ないようにと彼らの知覚力を失わせる。(サインズ・オブ・ザ・タイムズ 1895 年 11 月 21 日)

神のみ言葉に恐れおののく

主はこう言われる、「天はわが位、地はわが足台である。あなたがたはわたしのためにどんな家を建てようとするのか。またどんな所がわが休み所となるのか」。主は言われる、「わが手はすべてこれらの物を造った。これらの物はことごとくわたしのものである。しかし、わたしが顧みる人はこれである。すなわち、へりくだって心悔い、わが言葉に恐れおののく者である。」(イザヤ 66:1,2)

聖書を自分に語っておられる神のみ声として読む者だけが真に学ぶ者である。彼らは神のみ声に震えおののく、なぜならそれは生きた現実だからである。彼らは奉仕の準備ができるために、自分たちの理解力を神聖な教えに開き、恵みを求めて祈る。天来のたいまつが自分の手に置かれるとき、真理を求める者は、自分自身の弱さ、無気力、また義を求めて自分を見ることに希望がないことを悟る。彼は自分の中に神に自分を推奨できるものが何もないことを知る。彼はキリストの代表者である聖霊に、自分の絶え間ない導き手であるように、自分をすべての真理に導いてくださるようにと祈る。(両親、教師、生徒への勧告 450)

サタンがいろいろの方法で、神の律法の要求に対して、人々の目をくらましているこの時代において、「われわれの神の命令に」、多くの人々をふるえおののかすことのできる人々が必要である(エズラ 10:3)。大いなる律法の与え主を罪人に指し示し、彼らに「主のおきては完全であって、魂を生きかえらせ」ることを教える、真の改革者が必要である(詩篇 19:7)。聖書にくだしい人々、すべての言行において主の戒めを高める人々、信仰を強めようと努力する人々が必要である。人々の心に、聖書に対する崇敬の念と愛を起こさせる教師が、なんと多く必要なことであろう。(国と指導者下巻 224,225)

すべての者が「わたしは救われるために何をしなければならないでしょうか」と問う必要がある。神はご自分のみ言葉に恐れおののく、へりくだって悔い改めた心を要求なさる。わたしたちの無能力をはっきりと分からせ、キリストの威厳と栄光をわたしたちに示す天のたいまつを、わたしたちが受けることができるのは、天の祭壇からだけである。これが見られるとき、神はわたしたちを聖霊の導きのもとに置き、このお方はわたしたちをすべての真理に導かれる。(バイブル・エコ― 1896 年 7 月 20 日)

譴責の祝福

「戒めはともしびである、教は光である、教訓の懲らしめは命の道である。」(箴言 6:23)

われわれは、不正な行いをする者に過度に厳しくならぬよう注意しなければならないが、しかしまた、罪のはなはだしい罪深さというものを見落とすことのないよう、気をつけなければならない。過ちを犯している者に、キリストのような忍耐と愛を示すことは必要であるが、過ちに寛大すぎると、譴責を受けるほどでもないと思込ませてしまい、その譴責を不必要なもの、不当なものとして拒むようにさせてしまう危険がある。

福音を伝える牧師たちは時々、誤りに陥った者たちに対して寛容なあまり、罪を黙認し、みずから罪に関係することさえして、大きな害を及ぼすことがある。こうして彼らは、神がとがめておられることをゆるしたり、弁解したりするようになり、しばらくすると、神が譴責するようにと命じておられるその人々をほめるまでに盲目となってしまう。神がとがめておられる人々に、罪深い寛大さを示すことによって、自分の霊的な知覚力を鈍らせている者は、やがて、神が是認される人々に対して厳しい、苛酷な態度をとることによって、さらに大きな罪を犯してしまうであろう。(患難から栄光へ下巻 200)

聖霊の感動は、きょう無視されると、明日はきょうほど強くなる。心はだんだん感じなくなり、人生の短かさについて、また未来の大いなる永遠について、危険な無感覚状態に陥る。さばきの時にわれわれが罪に定められるとすれば、それは、われわれが誤謬の中にいた結果ではなくて、何が真理であるかを学ぶ機会を天から与えられていたにもかかわらず、これを無視した結果である。(各時代の希望中巻 291)

神への悔い改めとわたしたちの主イエス・キリストへの信仰の必要を悟る者は、魂の悔悟を持ち、主の御霊への自分の抵抗を悔い改める。彼らは天が恵み深くも自分たちに送ってくださった光を拒んだ罪を告白し、主の御霊を深く悲しませ辱めた罪を捨てる。自己をへりくだらせ、警告、譴責、励ましのメッセージを認めつつ、キリストの力と恵みを受け入れる。そのとき彼らの働きにおける信仰は明らかにになり、彼らは贖いの犠牲に頼る。(ビュー・アズ・ハルト 1890 年 8 月 26 日)

今こそ、その時である

「わたしたちはまた、神と共に働く者として、あなたがたに勧める。神の恵みをい
たずらに受けてはならない。神はこう言われる、『わたしは、恵みの時にあなたの
願いを聞きいれ、救の日にあなたを助けた』。見よ、今は恵みの時、見よ、今は救
の日である。」(コリント第二 6:1, 2)

わたしは過ちを正すのに遅すぎないことを感謝する。わたしたち自身の心を吟
味し、はたして自分が信仰のうちにいるかどうか、自らを試すのに遅すぎることは
ない。キリストが信仰によってわたしたちの心のうちに宿ってくださっているこ
とを自ら確認するのに遅すぎることはない。もしわたしたちが偉大な道徳的標準
と自らを比較するならば、自分の品性の欠点は何であるかを理解する。しかし、
わたしたちの欠点や短所が何であろうと、失望すべきではない。わたしたちは自
分自身の罪を認めて、それを捨て去らなければならない。なぜなら、キリストは
二心に宿ることはおできにならないからである。

わたしたちの魂を神から引き離す最も大きな罪は、不信と心の頑なさである。
なぜわたしたちはこれほど信ずることをせず、これほど感受性がないのであろう
か。その理由は、わたしたちが自信に満ちているからである。わたしたちは自己
満足を感じている。もしわたしたちが神の祝福の印を何か受けると、それをわた
したちが正しいことの保証として受け取る。そして譴責が与えられると、「わたし
は神がわたしを受け入れてくださったことを知っています。なぜなら、このお方が
わたしを祝福してくださったのですから。それゆえ、この譴責は受け入れません」
と言うのである。もし主が祝福してくださらなかったなら、わたしたちはどんなに
恐ろしい状態にいたことであろう！わたしたちは神がわたしたちに賜った品性の
型、すなわちキリストを研究しなければならない。もし裁断すべき衣服があれば、
型を研究する。そしてクリスチャン生涯において、わたしたちは自分自身の考えや
計画を放棄し、大いなる型どおりに進まなければならない。しかし、このように
する代わりに、わたしたちは大いなる型から離れて働く。わたしたちは、うぬぼ
れに満ちているべきではない。わたしたちはヨハネが言ったように、「彼は必ず栄
え、わたしは衰える」と言わなければならない(ヨハネ 3:30)。

あなたが型を研究し、模倣すればするほど、自己に信頼することはますます
少なくなる。……あなたが自分の事例を神のみ前にあるがままに見るとき、自分
自身の品性の欠点に関して、今あなたがもっているのとは違った考えを持つよう
になる。自分自身の見解と調和しないものが提示されるとき、そのことが自分の
聖書を研究する機動力となるべきである。(ビュー・アンド・ヘルド 1889年8月27日)

神が道を示された

「人よ、彼はさきによい事のなんであるかをあなたに告げられた。主のあなたに求められることは、ただ公義をおこない、いつくしみを愛し、へりくだってあなたの神と共に歩むことではないか。」(ミカ 6:8)

魂に記され、献身した聖なる生活のうちに表された神のみ言葉と律法には、世界を確信させる力強い感化力がある。偶像礼拝である貪欲、ねたみ、世への愛着は、キリストに従順である人々の心の中から抜き去られる。そして、正義を行い、憐れみを愛し、神のみ前にへりくだって歩むことが彼らの喜びとなる。ああ、このこと、すなわち神のみ前にへりくだって歩むことに、どれほど多くのことが含まれていることか！神の律法が、もし心に記されるならば、思いと意志をキリストの従順の支配の下へ連れて行く。

わたしたちの信仰は特別である。憐れみの最後のメッセージの響きの下で生きていると公言する多くの人々は、自分たちの愛情において世から分離していない。彼らは世の友情の前にひざまずき、世の恩寵を得るために光と原則を犠牲にする。使徒は次の言葉の中に恩寵を受けている神の民を描写している「しかしあなたがたは選ばれた種族、祭司の国、聖なる国民、神につける民である。それによって、暗闇から驚くべきみ光に招き入れて下さったかたのみわざを、あなたがたが語り伝えるためである」(ペテロ第一 2:9)。(教会への証 3 巻 201)

わたしたちは、なすべきほどに聖書を感謝していない。その貯蔵された富を正しく評価してもいなければ、自分で聖書を探る大きな必要性も悟っていない。人々は何か世俗的な利益を追求したり、当世の娯楽に興じたりするために、神のみ言葉を研究することを怠っている。何か些細なことが神の靈感によって与えられた聖書に対する無知の言い訳にされている。しかし、地上の性質を有するものは何であっても、わたしたちに永遠の命へ至らせる知恵を与えるこの非常に重要な研究よりは、それを切り捨てる方が良い。(クリスチャン教育の基礎 123)

神の子一人びとりにとって、心のうちに神聖な真理を蓄えることは特権である。そして彼がそうにすればするほど、ますます思いは神の深い事柄を探る活力と明晰さを持つようになる。彼は日常生活に真理の原則を実行するにつれ、ますます熱心に、活力にあふれた者になる。(ビュー・アズ・ハルド 1880 年 1 月 1 日)

神のご要求における豊かさ

「イスラエルよ、今、あなたの神、主があなたに求められる事はなんであるか。ただこれだけである。すなわちあなたの神、主を恐れ、そのすべての道に歩いて、彼を愛し、心をつくし、精神をつくしてあなたの神、主に仕え、また、わたしがきょうあなたに命じる主の命令と定めとを守って、さいわいを得ることである。」(申命記 10:12, 13)

主の規定された定めへの従順は、最も豊かな祝福をもたらす。(サインズ・オブ・ザ・タイムズ 1898 年 2 月 21 日)

あなたはまだあなたが持っていない、また思い及びもしないほどはるかに深い経験を持たなければならない。すでに神の大いなる家族の一員となっている多くの人々が、神の栄光を眺めて、栄光から栄光へと変えられていくという意味が何であるかほとんど知らない。あなたがたのうち多くの人々は、キリストの卓越さの薄明かりをとらえて、魂が喜びに踊っている。あなたがたはもっと完全で、もっと深い救い主の愛の知覚を切望している。あなたは満足していない。しかし、絶望してはならない。イエスに心の最もすぐれた最もきよい愛情をささげなさい。光線の一つ一つを蓄えなさい。神を慕う魂の願い一つ一つを大事にしなさい。霊的な思想と聖なる交わりの素養を得なさい。あなたはこのお方の栄光のごくはじめの夜明けの光しか見ていない。あなたが主を知ろうと切に求めるにつれて、このお方が暁のように必ず現れ出ることを知るようになる。「正しい者の道は、夜明けの光のようだ、いよいよ輝きを増して真昼となる」(箴言 4:18)。わたしたちの罪を悔い改め、それらを告白し、許しを見出した後に、わたしたちは完全な福音信仰の真昼へ至るまでキリストを学び続けなければならない。(教会への証 8 巻 317,318)

静かな祈りと瞑想の生活が、イエスがわたしたちに期待しておられるすべてではない。このお方は実を、すなわちわたしたちの生活に真の信心の徳が具体化され、良い者であるばかりでなく良いことをするように期待しておられる。魂はこのお方の戒めのすべてを守り、このお方へのご要求への完全な従順のうちに神にまったく明け渡すことによって、献身しなければならない。(サインズ・オブ・ザ・タイムズ 1878 年 2 月 21 日)

神はわたしたちがご自分の力のうちに果たすことのできないことは何も要求しておられない。何一つわたしたち自身とその子供たちのために益とならないものは要求なさらない。(同上 1882 年 2 月 9 日)

良い物を拒まれることはない

「主なる神は日です、盾です。主は恵みと誉とを与え、直く歩む者に良い物を拒まれることはありません。」(詩篇 84:11)

あなたの信仰は、ただちに自分の祈りに答えが与えられることを認めたり感じたりしないからといって、神の約束を離してはならない。神に信頼することを恐れてはならない。このお方の確かな約束により頼みなさい。「求めなさい、そうすれば、与えられるであろう」(ヨハネ 16:24)。神は過ちを犯すにはあまりに賢明で、直く歩むご自分の聖徒から良いものを一つでも差し控えるにはあまりにも良いお方である。人は過ちを犯す。そして正直な心から自分の嘆願をささげたとしても、彼自身の益のために、あるいは神に栄光を帰すものを求めるとは限らない。その場合、わたしたちの賢明にして善なる御父はわたしたちの祈りを聞き、時にはすみやかに答えてくださる。しかし、このお方はわたしたちにとって最善、かつご自身の栄光になるものを与えてくださる。神はわたしたちに祝福を与えてくださる。もしわたしたちがこのお方のご計画を見ることができるなら、このお方がわたしたちの最善をご存じであり、わたしたちの祈りに答えてくださることをはっきりと認めることであろう。害となるものは何一つ与えられない。そうではなく、わたしたちが求めた益となるどころか害になるものの代わりに、わたしたちが必要としている祝福が与えられるのである。……

もしわたしたちが自分の祈りに直ちに応えられるを感じなくても、信仰を固く持ち、不信が入り込むことを許してはならない。なぜなら、それはわたしたちを神から引き離すからである。もしわたしたちの信仰が揺らぐなら、このお方から何も得ることはない。わたしたちの神への信頼は強くあるべきである。そしてわたしたちが祝福を最も必要としているときに、それは雨のようにわたしたちに下るのである。

神の僕が神の御霊と祝福を祈り求めるとき、それはときにすみやかにもたらされる。しかしいつもそのように与えられるとは限らない。そのようなときに、弱り果ててはならない。あなたの信仰がしっかりと約束をつかむなら、それは果たされる。神を完全に信頼しなさい。そうすればしばしば祝福はあなたがそれを最も必要としていたときにもたらされ、あなたは真理を未信者に提示しているときに、思いがけず神から助けを受け、明晰で力のある言葉を語ることができるようにしてくださる。……

まじめな心から信仰のうちにささげられる祈りの一つ一つは、神に聞かれ、答えられる。そして嘆願をささげた人は、それを最も必要としているときに、祝福を得ようになる。そしてしばしばそれは期待を超えるのである。(教会への証 1 巻 120,121)

神のみ顔の光のうちに

「祭の日の喜びの声を知る民はさいわいです。主よ、彼らはみ顔の光のなかを歩み」(詩篇 89:15)

神は、魂の健康と繁栄に注意を払うことを、第一の仕事とするように要求しておられる。わたしたちは神の恩寵を享受していること、神がわたしたちに微笑んでおられること、わたしたちが本当にこのお方の子であること、そして神がわたしたちと交わることができ、またわたしたちがこのお方と交わることでできる立場にいることを確認すべきである。わたしたちはこのお方が安全にわたしたちに祝福を与えることがおできになるへりくんだりと柔和の立場に至るまで、またこのお方の光がわたしたちの上に輝き、その光をわたしたちがあたり一面に反射できるように神との聖なる近さにまで連れて行かれるまで安んじるべきではない。しかし、わたしたちがその光のうちに生きるために、自ら真剣に奮闘しないかぎり、このようにすることはできない。神はご自分に従うすべての人々にこれを要求しておられる。(ビュ・アンド・ヘド 1870 年 3 月 29 日)

イエスの麗しさ、いつくしみ深さ、憐れみ、愛を思い続けることは、精神と道徳の力を強める。そして思いがキリストのわざをなすように、すなわち従順な子となるように訓練され続ける間に、あなたは習慣的に、これは主の道であろうか、と尋ねるようになる。イエスは、わたしがこれをなすことをお喜びになるであろうか。この道は私自身を喜ばせることであろうか、あるいはイエスをお喜ばせることであろうか。……

多くの人々は、イエスを喜ばせたければ、思想と行動の特質に決定的な変化を必要としている。わたしたちは自分の罪を、神がご覧になるような悲しむべき光のうちに见ることがほとんどできない。多くの人々は、罪の道を進むことに慣れており、彼らの心はサタンの力の影響の下で固くなっている。そして彼らの思想は彼の悪影響の虜にされている。しかし、神の力と恵みのうちに、彼らが自分の思いをサタンの誘惑に対抗する場所におくなら、彼らの思いは明晰になり、彼らの心と思いは神の御霊に感化されることによって敏感になり、そのとき、罪が有りのまま一はなはだしく罪深いもの一としてあらわれるのである。そのときこそ、秘かな罪が彼らの顔の光のうちにおかれる。彼らは自分たちの罪を神に告白し、それらを悔い改め、罪を恥じるようになるのである。……このお方はそれらを神のみ顔の光からこのお方の背後へと投げ捨てる。(SDA バイブル・コメンタリ [E.G. ホバ・コウト] 3 巻 1150)

地下室から出てきなさい！

「ヤコブの家よ、さあ、われわれは主の光に歩もう。」（イザヤ 2:5）

神はあなたが自分の闇を捨て去るように、そしてクリスチャンの宗教には世にない力があることを示すようにと望んでおられる。このお方はあなたをご自分のうちにあつてすべて光にしたいと望んでおられる。またあなたの心を愛と平安と希望で満たしたいと望んでおられる。もし、それでも、あなたが自分の闇にしがみ続けるならば、あなたはこのお方を辱めるのである。なぜなら、あなたは罪をお許しになる救い主を世に正しく表していないからである。もしあなたが暗く、落胆し、希望がないなら、あなたはキリスト教の粗悪な代表者である。キリストはすべての人のために死なれた。犠牲は完全であつた。あなたには完全な力強い救い主がおられることを世に示すのはあなたの特権であり、義務である。受け入れるすべての人のために、満ちみちた無償の救いを買取するために死なれたのは、無限の神の御子であられた。そうであれば、なぜこのお方をあなたの救い主として信じないのか。このお方はあなたの不信仰を譴責なさる。このお方はあなたの信仰を尊ばれる。

地下室に行ってみなさい。そうすればあなたは闇についてよく話すことができるであろう。そして「見えない、見えない」と言うことであろう。しかし、二階の部屋にあがつてきなさい。そこには光が輝いており、あなたは闇のうちにいる必要がない。キリストがおられるところへ来なさい。そうすればあなたは光をもつようになる。不信仰を語るなら、あなたは不信仰を得るであろう。しかし、信仰を語るなら、あなたは信仰を得るであろう。まいた種に従つて収穫を得るのである。もしあなたが天と永遠の報いについて語るなら、あなたは主のうちにますます明るくなり、あなたの信仰は成長する。なぜなら、それを働かせるからである。親愛なる友人がたよ、あなたがたの目をしっかりとイエスに留めなさい。そうすれば、眺めることによって、あなたはこのお方のみかたちに同化していく。あなたの思想がいつも地上のことを考えることを許してはならない。かえつてそれらを天来の事柄を思うようにしなさい。そうすれば、あなたはどこにしようと、世に対する光となる。

日ごとに信仰の生活を送りなさい。悩みの時について不安になったり心配したりして、前もって悩みの時を持つことがあつてはならない。つねに「わたしは大いなるテストの日に耐えられるか心配だ」と考え続けてはならない。あなたは現在、この一日だけを生きるべきである。明日はあなたのものではない。今日、あなたは自己に対する勝利を維持しなければならない。今日、あなたは祈りの生活を送らなければならない。今日、あなたは信仰の良き戦いを戦わなければならない。（ヒストリカル・スケッチ 142）

わたしの光はどこから来ているか？

「見よ、火を燃やし、たいまつをともし者よ、皆その火の炎の中を歩め、またその燃やした、たいまつの中を歩め。あなたがたは、これをわたしの手から受けて、苦しみのうちに伏し倒れる。」（イザヤ 50:11）

神の民は天の光のうちを歩むべきであって、自分自身のともした、あるいは敵が自分のためにともした異火のうちに歩むべきではない。敵は、もしわたしたちが導かれるならば迷わせるのに十分な火をおこす。わたしたちは自らを真理と義と公平と正義の最も高い標準に到達する立場に身をおかなければならない。（世界総会冊子 1901 年 4 月 10 日）

多くの人々は、自分の牧師たちが神からの光を自分たちにもたらしてくれることを期待し、自分自身でわざわざ神の許へ行くよりもそのほうが楽だと思っている。このような人は多くを失う。もし彼らが日々キリストに従い、このお方を自分の案内また相談相手とするならば、彼らはこのお方のみ旨についての明確な知識を持ち、こうして貴重な経験を得続けることができる。まさにこの経験が不足しているために、真理を公言する兄弟たちは他の人のともし異火のうちを歩む。彼らは神の御霊となじみがなく、神のみ旨についての知識がない。そのために簡単に自分の信仰から動いてしまう。彼らに安定がないのは、彼らが自分のための経験を得るのに他の人を当てにするからである。個々人が神聖なみ旨についての知識を得、またクリスチャン品性を完成し、真理を通して清められるために、一人ひとりのアダムの子息娘のために豊かな備えがなされてきた。（教会への証 2 巻 644）

大いなる光と祝福をもち、多くの機会と特権をもちながら、それらを救いに至るように用いないことは恐るべきことである。自分たちの機会を救いに至るように用いない人々は、神が自分たちに授けて下さった特権によって責められることになる。しかし、光のうちに歩む人々は、さらに多くの光を受けるようになる。真理の光をもっていながら、その光のうちに歩んでこなかった人々は、コラジンとベツサイダが受けたのと同じ有罪宣告の下にいる。これらの警告に注意を払わないのであろうか。これらの訓告はわたしたちの上に重みを持たないのであろうか。近い将来、だれがへりくだって神と共に歩んできたか、まただれがこのお方のご命令に従ってきたかが、ありのままに見られるようになる。（*クリスチャン教育* 140,141）

命の光

「見よ、火を燃やし、たいまつをともし者よ、皆その火の炎の中を歩め、またその燃やした、たいまつの中を歩め。あなたがたは、これをわたしの手から受けて、苦しみの中に伏し倒れる。」(ヨハネ 8:12)

神の民はあまりにも雲の下にとどまりすぎる。彼らが不信仰のうちに生きることは、神のみ旨ではない。イエスは光であられる。そしてこのお方のうちには闇が少しもない。このお方の子らは、光の子らである。彼らはこのお方のみかたちに新たにされ、闇からこのお方の驚くべきみ光に導き入れられるのである。このお方は世の光であられる。そして、このお方に従う彼らも同様である。彼らは闇の中を歩まず、命の光を持つ。神の民がもっと厳密にキリストを模倣しようと奮闘すればするほど、ますます敵にしつこくつけねられることになる。しかし、彼らがキリストと近いことは、キリストから彼らを引き離そうとするわたしたちのずる賢い敵の努力に抵抗するために、彼らを強める。

わたしは、わたしたちがあまりにも自分たちの間で比較することが多く、確かな間違いのない模範があるときに、誤りの多い死すべき人間を模範とすることを示された。わたしたちは世によって、あるいは人の意見によって、あるいはわたしたちが真理を奉じるまえの自分たちの状態によって、自らを測るべきではない。そうではなく、世における今のわたしたちの信仰と立場は、もしわたしたちがキリストに従うと公言するようになってから、つねに前進、向上する道のりであったならばなっていたはずの状態と比較しなければならない。これだけがわたしたちのなすことのできる安全な比較である。その他は何でも、自己欺瞞がおこることになる。もし神の民の道徳的な品性と霊的な状態が自分たちに与えられてきた祝福と特権と光に見合わないならば、彼らは秤ではかられて、御使が「足りない」という報告をなすのである。

ある人々は、自分たちの真の状態の知識が、自分たちから隠されているようである。彼らは真理を見るが、その重要性和その要求を悟らない。彼らは真理を聞くが、それを十分に理解しない。なぜなら、自分たちの生活をそれに調和させないからである。したがって、それに従うことによって聖化されることがない。(教会への証 1 巻 405,406)

服従の道は安全の道である。「まっすぐに歩む者の歩みは安全である」(箴言 10:9)。(同上 3 巻 108)

主はご自分の民のために一つの安全な道を持っておられる。そしてそれは主の言葉への従順の道である。(バプル・エー 1895 年 4 月 19 日)

従順の道は、天へ導く唯一の道である。(ビュー・アンド・ヘルド 1875 年 3 月 18 日)

いにしえの道からつまずき離れる

「昼間あるけば、人はつまずくことはない。この世の光を見ているからである。しかし、夜あるけば、つまずく。その人のうちに、光がないからである。」(ヨハネ 11:9, 10)

なんと多くの人々が、頭でっかちな宗教経験を持っていることであろう。彼らはキリストから栄養を得ていない。彼らは世を愛し、世の愛するものを愛している。ときどき、彼らはキリストの愛によって感動するが、気をつけて見張り、祈ることをしない。彼らは自己否定と十字架を担う道を選ばず、イエスが地上で歩まれた道に従うことをしない。彼らは自己にふけり、自分たちの金銭を糧にもならぬもののために費やし、満たすことのないもののために労する。彼らは預言者が次のように言ったときのようである。「しかし彼らは言う、『それはむだです。われわれは自分の図るところに従い、おのおのその悪い強情な心にしたがって行動します』と。それゆえ主はこう言われる、異邦の民のうちのある者に尋ねてみよ、このような事を聞いた者があろうか。おとめイスラエルは恐ろしい事をした。レバノンの雪が、どうしてシリオンの岩を離れようか。山の水、冷たい川の流れが、どうしてかわいてしまおうか。それなのにわが民はわたしを忘れて、偽りの神々に香をたいている。彼らはその道、古い道につまずき、また小道に入り、大路からはなれた」(エレミヤ 18:12-15)。この世のわずらいが良いことを締め出してしまうことを許す人々は、この世に飽きあきするようになる。彼らが神へ献身すべき時になると、彼らは自己満足のために献身する。主の働きが彼らの第一の懸念事項であるべきである。しかし、イエスとイエスがそのために死なれた魂は二の次の重要性を持つものとして扱われている。世を愛する彼らの愛情、富みを求める彼らの願い、世の標準に合わせて、世の流行に従い、すべての新しいことを試そうとする彼らの熱意は、世に詰まって、実を結ばないのである。(レビュー・アンド・ヘルト 1892年6月21日)

義の太陽の明るい光線は、すべての暗い雲を追いつく。……わたしたちは真夜中の闇の中でも道中つまずく必要がないと知るとは、なんとという慰めであろう。光は正しい人のために現れ、喜びは心の正しい者のためにあらわれる。(原稿リ-ス7巻 391)

光に従って生きる

「もうしばらくの間、光はあなたがたと一緒にここにある。光がある間に歩いて、やみに追いつかれないようにしなさい。やみの中を歩く者は、自分がどこへ行くのかわかっていない。光のある間に、光の子となるために、光を信じなさい。」(ヨハネ 12:35, 36)

どの人も、どの教会も、娯楽を愛する階級と交わりながら、主がご自分のみ言葉を信じる単純な信仰を持っている人々のために送られた豊かな流れを感謝していることを表すことはできない。世はノアの時代における世界のように腐敗しており、墮落している。唯一の治療法は真理を信じることであり、光を受け入れることである。(牧師への証 91)

神の残りの民は改心した民でなければならない。このメッセージの提示は、魂の改心と聖化という結果となる。わたしたちはこの運動において神の御霊の力を感じるべきである。これはすばらしいはっきりとしたメッセージである。それは受ける者にとってすべてを意味する。そして大いなる叫びをもって宣布されるべきである。わたしたちはこのメッセージが時の終わりまでますます重要性を増し加えながら伝えられるように、真実で不変の信仰を持たなければならない。

証のある部分は神のメッセージとして受け入れながら、自分たちのお気に入り of 放縱を責める部分は拒否する自称信徒たちがいる。このような人々は自分自身の幸福と教会の幸福に反して働いているのである。わたしたちは光のあるうちに光のうちに歩むことが重要不可欠である。健康改革を信じると主張しながら、日常生活の習慣の中でその原則に反して働く人々は、自分自身の魂を傷つけ、また信徒や不信者の心に悪い印象を残している。

真理を知っている人々に厳粛な責任が負わされている。それは彼らのすべての働きがその信仰に見合ったものとなること、また彼らの生活が精錬され聖化されること、またメッセージが閉じようとするこの時代に速やかになされなければならない働きのために彼らが準備することである。彼らには食欲の放縱に費やす時間も力もない。……わたしたちのうちに靈的に不足した者、全く改心しない限り、確実に失われることになる者がいる。あなたは危険を犯す余裕があるであろうか。(教会への証 9 卷 154,155)

受け入れられるものが何かを確かめる

「あなたがたは、以前はやみであったが、今は主にあつて光となっている。——光の子らしく歩きなさい。光はあらゆる善意と正義と真実との実を結ばせるものである——主に喜ばれるものがなんであるかを、わきまえ知りなさい。」(エペソ 5:8-10)

神はわたしたちを正しく生きることと同様に、奉仕へと召しておられる。このお方は忠実さをもって今日の義務をなすように、すべての人に要求しておられる。しかし、これらの義務はクリスチャンだと公言する大多数によって大いに無視されている。彼らは身分が低く、つましい、貧しい人を避け、自己否定と自己犠牲のキリストのための働きを避ける。彼らの最高の利己心は、よりたやすく、より好みにあう働きを選ばせる。

天の全能者にあつてはそうではなかった。御使たちが礼拝するお方、誉れと栄光に富んだお方が地上に来られたとき、人と同じようになられた。このお方は他の恵まれない人々から隔たっていることも、義の教師としてご自分が入られたつらい自己犠牲の道から逃れようともなさらなかった。(サゾ・ウッチマン 1903 年 7 月 9 日)

自分が公言する真理の聖化する感化力について、体験的な知識をもっている人はごくまれである。彼らの服従と献身は、自分たちの光と特権に比例していない。闇の子としてではなく、光の子として歩むべき自分たちに課された義務を真に自覚していない。もし彼らに与えられてきた光がソドムとゴモラに与えられていたなら、彼らは荒布と灰のうちに悔い改め、めざましい神の怒りを逃れたことであろう。裁きの日には、明白な光の特権を受け、甚大な働きを得ながら、それによって益を受けなかった人々よりは、ソドムとゴモラの方が耐えやすいであろう。彼らは神が憐れみのうちに与えようと望んでおられた大いなる救いをなおざりにしたのである。(教会への証 2 巻 488,489)

世俗的な人は世俗の原則によって統治される。彼らはそれ以外を評価することができない。しかし、クリスチャンはこれらの原則によって統治されるべきではない。彼らは義務を遂行する際に、神のみ言葉のうちに見出されるとおりに、そして啓発された良心によって指示されるとおりに神のすべてのご要求に従うことを愛する、ということ以外のことを何か考えて、自らを力づけようとすべきではない。(同上 488)

分離され、区別されている

「実を結ばないやみのわざに加わらないで、むしろ、それを指摘してやりなさい。」
(エペソ 5:11)

キリストに従う人々は世から出てきて、分離し、汚れたものに触れないことを要求されている。そのとき、彼らにはいと高き者の息子娘、王家の一員となる約束がある。しかし、もし彼らの側で条件に応じないならば、約束の成就是果たされない。キリスト教の公言は、神の御目に無に等しい。しかし、このお方のご要求への真実で謙遜な心からの従順は、このお方の養子による子供、このお方の恵みを受けた者、このお方の大いなる救いにあずかった者であることを示す。彼らの特別な聖なる品性が認識されるようになり、彼らを世から、その愛情と欲から、はっきり分離させるようになる。……

わたしたちのうちにこの描写に見合う人はほとんどいない。彼らの神への愛は、言葉においてであって、行いや真理においてではない。彼らの一連の行動やわざは、彼らが光の子ではなくて闇の子であることを証している。彼らの働きは、神のうちにではなく、かえって利己心と不義のうちになされている。彼らの心は神の新たにする恵みを経験していない。彼らは自分たちを導いてキリストが歩まれたように歩ませる変化の力を経験したことがない。天のぶどうの木の生きた枝は、ぶどうの木の樹液と養分にあずかるものとなる。彼らは枯れた実のない枝にはならず、かえって命と活力をあらわし、繁茂し、神の栄光へと実を結ぶのである。彼らは注意深くすべての悪から離れ、神の畏れのうちに聖潔を完成する。(教会への証 2 巻 441)

新たにされた心には、神のみ旨に従うという不変の原則がある。なぜなら、正しく善であって聖なるものを愛する愛情があるからである。そこには、ためらいも、嗜好に合わせることも、都合を考えることも、他の人がそうするからといってある道へ進んで行くこともない。すべての人が自分で生きるべきである。恵みによって新たにされるすべての人の思いは、開かれた媒介であり、上からたえず光、恵み、真理を受けては、同じものを他の人々に伝える。彼らの働きは実りが多い。彼らはきよきに至る実を結び、その終極は永遠のいのちである。(同上 488)

光にさらされ、新たにされる

「光にさらされる時、すべてのものは、明らかになる。明らかにされたものは皆、光となるのである。」(エペソ 5:13,14)

明白な光が輝き出るようにしよう。注意深く祈りをもって研究する神のみ言葉が人を均整の取れたものに保つ。このみ言葉の中に、わたしたちははっきりと定義された神の方法を見いだす。み言葉をまじめに探る人は、だれも闇のうちに歩むことがない。しかし、わたしたちは神が送られた光をわきに捨てながら、同時にその光線の中を歩むことはできない。クリスチャンであるならば、わたしたちはこのお方の徳を表し、このお方のみわざをなして、万事におけるクリスチャンでなければならない。真理がわたしたちの保護手段である。聖霊によって心の中に植え付けられると、真理は何が正しいことで、何が間違っているか、わたしたちがはっきりと違いを認めることができるようにさせる。(上を仰いで 21)

わたしたちは光が自分たちの罪を示し、わたしたちを譴責するからといって光よりも闇を選ぶのであろうか。自分たちの行いが明るみに出るからといって、光の許へ来ることを拒むのであろうか。真理が生活を支配するとき、純潔と罪からの自由がある。福音の計画の栄光と、満ちみちた十分さと、完全さが、生活の中で成就する。真理の光が魂の宮から放射する。理解力がキリストをとらえる。光が譴責し、警告するからといって憎まれることはなく、かえって受け入れられ、光のうちに喜ぶのである。

キリストは「わたしがこの地から上げられる時には、すべての人をわたしのところに引きよせるであろう」と宣言された(ヨハネ 12:32)。もし人の意志が神の意志に屈服させられるなら、人は罪人であっても、キリストに引き寄せられる。彼は、命と不死を人の手の届くところへおくために、神がご自分のひとり子を与えカルバリーの十字架上で死にわたされたときに神が表された愛をなにがしか悟るようになる。救い主を受け入れることによって、完全な平安、完全な愛、完全な保証がもたらされる。キリストの生涯の麗しさと香りが、品性の中に表されるとき、神が真実、世にご自分の御子を遣わされたということを証する。他の力は何も、これほど顕著に、人の言葉と精神と行動に、変化をもたらすことはできない。

キリストがいなければ、人の心は冷たい。しかし、自分が義の太陽を必要としていると感じるとき、彼はイエスの許へ来て、主よ、わたしは罪深く、価値がなく、希望もない者です、わたしをお救い下さい、さもなければわたしは滅びます、と言うとき、彼は愛されたお方のうちに受け入れられ、彼の心は神聖な愛の光線によって暖められる。(ユース・インストラクター 1899 年 9 月 28 日)

神は起きよとの召しを送っておられる

「眠っている者よ、起きなさい。死人のなかから、立ち上がりなさい。そうすれば、キリストがあなたを照すであろう。そこで、あなたがたの歩きかたによく注意して、賢くない者のようにはなく、賢い者のように歩き、今の時を生かして用いなさい。今は悪い時代なのである。だから、愚かな者にならないで、主の御旨がなんであるかを悟りなさい。」(エペソ 5:14-17)

わたしたちはたしかにこの地上歴史の終末時代に生きている。もしこの時代に欠くことのできない霊的な成長を経験したければ、わたしたちは自分たちの霊的な利益のために多くの時間を捧げる必要がある。わたしたちは決定的な改革をすべきである。み声は言っている、見張り人は目覚める必要がある。確かなラッパの音を出しなさい。朝が来る、また夜も来る。起きよ、わが見張り人よ。今真理を提示するのが聞かれるべき声は、沈黙している。(パシフィック・ユニオン・レコーダー 1,908年2月20日)

わたしたちは目覚めて、イエスのうちにあるがままの真理を理解する必要がある。わたしたちは好みに合わない仕事を避けようとするのがないように、神のみ言葉に勧告を求める必要がある。わたしたちが神の共労者であることを自覚するとき、半分無関心な様子で約束を語ることはない。かえって、わたしたちの心のうちに燃え、わたしたちの唇に火をともしものである。わたしたちはそれらを熱心に神のみ座に提示する。すると、主はご自分の御霊を注ぎ出して下さる。(ビュー・アンド・ヘラルド 1896年1月21日)

キリストの初臨の時に、御使たちは讃美の歓呼をもって夜の静けさを破り、「いと高きところでは、神に栄光があるように、地の上では、み心にかなう人々に平和があるように」と叫んだ。このお方はまもなく、再び力と大いなる栄光をもって来られる。世と結合していない人々は、この時代が、弱々しくぼんやりした淡々とした説教以上の何かを要求していることを悟る。彼らはみ言葉に伴う熱心さと力がなければならぬことを認める。それが警告に反対するために黄泉の力を目覚めさせることになる。神は民が自分たちの肉の安全から呼び覚まされるようにと意図しておられる。こうして彼らがわたしたちの間近に迫っている大事件に備えることができるためである。……神はこの時代に眠たげで無気力なメッセージを受け入れることはおできにならない。昔、「人々が聖霊に感じ、神によって語った」(ペテロ第二 1:21)。そして、わたしたちの時代にも、そのような教えを期待できる。……だれも神が信じる人々の間でご自分の力を表されたいと思うことがないようにしよう。なぜなら、このお方は働かれるし、だれもこのお方を妨げることはできないからである。(エソ・G・ホフ 1888年原稿 1254,1255)

「神のものであって、わたしたちから出たものでない」

「『やみの中から光が照りいでよ』と仰せになった神は、キリストの顔に輝く神の栄光の知識を明らかにするために、わたしたちの心を照して下さったのである。しかしわたしたちは、この宝を土の器の中に持っている。その測り知れない力は神のものであって、わたしたちから出たものでないことが、あらわれるためである。」（コリント第二 4:6, 7）

多くの人々は、聖書の中に含まれている教訓について、かつて見られたよりも、もっと十分な理解を得つつある。そして、彼らは敬神のより高い標準を見分けている。彼らは、世界のためになされるべき、キリストのための真剣な熱意、精力、自己否定、そして自己犠牲を要求する働きがあることを悟る。長年見てきたよりももっと高く、もったきよい種類のキリスト教が表されるようになる。わたしたちは非常に神聖な一触を必要としている。それはこれ以上、わたしたちの安逸で無関心な低い標準に合わせて働くことがないためである。しかし、教会が適切に教育されるとき、そしてその教会員が賢明に訓練されるとき、古いも若きも働くという思いをもつようになる。（エルン・G・ホフ 1888 年原稿 1253,1254）

パウロは牧師や民の思いに、なぜ福音が弱く間違いを犯す人間に託されてきたのかその理由を印象づけようとした—それは人間が神だけに帰する誉れを受けることがなく、神がすべての栄光を受けるためである。大使は、あたかも自分自身の宝で働きを成し遂げたかのように得意がったり、成功の栄誉を自分のものにしたたり、あるいは神と誉れを分けあったりさえしない。苦心した理論づけや教理の議論的な説明は、聞く者に自分の必要や危険を印象づけることはめったにない。キリストの愛によってやさしく同情的にされた心からの、単純で簡潔な言葉が、からし種の一粒のようになるのである。……

わたしの兄弟たちは、人間には何の栄光も与えられていないということを心に留めるであろうか。彼らはキリストが人の心に働かれるのであって彼ら自身ではないということを認めるであろうか。（牧師への証 154）

キリスト教の初期のころ、滅びゆく世に救いのよきおとずれを携えていった献身的な使命者たちは、自己称揚の思いから、キリストとその十字架を示す働きを台なしにするようなことはなかった。彼らは権威も、自己の卓越をも望まなかった。（患難から栄光へ上巻 225）

墮落した地において天を見出す

「しかるに、あわれみに富む神は、わたしたちを愛して下さったその大きな愛をもって、罪過によって死んでいたわたしたちを、キリストと共に生かし――あなたがたの救われたのは、恵みによるのである――キリスト・イエスにあって、共によみがえらせ、共に天上で座につかせて下さったのである。」(エペソ 2:4-6)

もし主が、昔ご自分の民が困難の時にご自分に勧告を求めることをなおざりにしたために譴責されたとしたら、今日ご自分の民が自分たちの道を照らすために義の太陽の明るい光線に頼る代わりに、自分たちのテストや試練の時にご自分に背を向けて、自分たちと同様に間違いを犯しやすく無関心な人間の助けを求めるとしたら、快く思われないのではないだろうか。わたしたちの力はどこにあるのであろうか。自分たちと同じように無力で依存し、わたしたちが必要としているように神からの導きを必要としている人間のうちにあるのであろうか。(牧師への証 380,381)

最大の必要の時に、すなわち失望が魂を圧倒しているとき、その時こそ、見守っておられるイエスの目はわたしたちがご自分の助けを必要としていることをご覧になる。人の必要の時は、神の好機の時である。すべての人間の支援が役に立たないとき、そのとき、イエスはわたしたちを助けるために来られ、このお方のご臨在が闇を散らして、陰鬱の雲を晴らして下さるのである。(教会への証 4巻 530)

もしあなたがキリストと共に天国に座したならば、神を讃美せずにはいられない。あなたの舌がこのお方を讃美し始めるように教育し、あなたの心が神に旋律を奏するように訓練しなさい。そしてもし悪い者があなたの周りに彼の暗がりをつたえ始めたら、神への讃美を歌いなさい。物事があなたの家路に交差するならば、神のみ子の比類のない魅力について、讃美を歌い始めなさい。そうすれば、たしかにあなたに言うが、この曲を奏するとき、サタンはあなたを離れる。あなたは敵をその暗がりと共に追い出すことができる。彼の暗い影は、神を讃美することによって、あなたの道から一掃される。そしてあなたは、ああ、もっと非常にはっきりと、あなたの天父の愛と同情を認めることができる。義の太陽の光を覆い隠して、あなたがそれを見ることができないようにすることが、彼の研究している努力である。あなたの思いは神へと引き上げられるべきである。あなたは自分の家族の中で、また教会の中で、讃美集会を持つべきである。いかなる時にも、いかなる場所でも、陰鬱な物語をしてはならない。全世界があなたがたを見て、「この人たちは神を愛する民である。なぜなら、わたしたちは彼らのうちに神のみかたが反映しているのを見ることができるからである」と言うようにしなさい。(ビュー・アノド・ヘルド 1890年8月5日)

愛のうちを歩む

「また愛のうちを歩きなさい。キリストもあなたがたを愛して下さって」(エペソ 5:2)

イエスの近くに生活している者は、敬虔の奥義について多くのことをさとり。謹責が与えられ、品性が試みられ、心の意図が明るみに出されるのは、あわれみによるものであることを彼はみとめる。(各時代の希望中巻 146)

苦しみや困窮を取り除いたら、わたしたちは神の憐れみと愛を理解する手段がなくなってしまうことであろう。思いやりのある同情深い天父を知る道がなくなってしまう。福音が最も困窮し、極貧の地域に伝えられるときほど、大きな麗しい局面を帯びることは、他にない。そのとき、最もはっきりとした輝きと偉大な力をもって、福音の光が輝き出る。神のみ言葉からの真理が、田舎人のあばら家に入り、義の太陽からの光線が貧困者の粗雑な小屋を照らして、病人や苦しむ人に喜びをもたらす。神の御使たちがそこにいて、表された単純な信仰が、固いパンと水のコップをごちそうにする。罪を許す救い主は貧しい者や無知なものを歓迎し、彼らに天から下るパンを食べるようにお与えになる。彼らは命の水を飲む。忌み嫌われ、見捨てられてきた人々は、信仰と許しを通して、神の息子娘の気高さにまで上げられる。世を超越して引き上げられ、彼らは天国でキリストのうちに座する。彼らには地上の宝はないが、高価な真珠を見出したのである。(教会への証 7 巻 226)

キリストがわたしたちのために明らかに示してこられた愛は、比類がない。……ああ、わたしたちの救い主によって表された愛と関心に比較するとき、わたしたちの愛はなんと冷たく、わたしたちの関心はなんと弱々しいことであろう！イエスはわたしたち人類を贖うためにご自身を賜った。それでいながら、わたしたちはなんとたやすくイエスのために自分の持っているすべてのものを与えることを免れようとするであろう。わたしたちの救い主は、疲れる骨折り、屈辱、苦しみを甘んじて受けられた。このお方は、なすために地上に來られた偉大な働きに携わっておられる間、嫌悪され、あざけられ、嘲笑された。

わが兄弟姉妹がたよ、あなたは「わたしたちはどの模範を模倣しようか」と尋ねるであろうか。わたしはあなたがたに偉大にして善なる人ではなく、世の贖い主を指し示す。もしわたしたちが本当の伝道精神を持ちたければ、キリストの愛が吹きこまれなければならない。わたしたちは自分たちの信仰の創始者であり完成者であられるお方を見て、このお方のご品性を研究し、このお方の柔和とへりくだりの精神を培い、そしてこのお方のみ足の跡を歩まなければならない。(同上 5 巻 385)

これが愛である

「戒めどおりに歩くことが、すなわち、愛であり」(ヨハネ第二 6)

すべての罪深い放縦、あらゆる形態の悪徳、すべての利己的な野心は、道徳律によって有罪を宣告されている。安っぽく、いい加減で、不注意な種類の思いと品性がこの時代に非常に広く行きわたっているが、これは神の律法によっては認められていない。この律法は、魂がわなにかけられ、苦い経験によって罪への放縦の結果がいかに憎むべきものであるかを悟るまでは、美しい装いのうちに自らを覆う好色的な悪徳を責めている。神の律法は、神の思いからの放射物であり、戒めは人間の道徳的な義務を網羅している。

短い人生の恩恵期間の間に、わたしたちは将来の不死の命のために教育され、訓練されるべきである。そして人生の規則は、神の戒めであるべきである。「せよ」また「してはならない」は、嘆かわしい命令ではない。神の律法は奴隷のくびきではない。なぜなら律法を行う人は従順のうちに命と力を見出すからである。イエス・キリストから彼らに与えられた恵みを通して、彼らは真に神の聖なる命の規則に従順な者となれる。神の戒めを守るとは、魂を神の愛のうちに保ち、悪から命を守り、品性を愛の天国のために訓練することを意味する。

神の律法の拘束力のある要求は廃されたと教える人々は、自分たちが神の律法についてすべて知っていると考える。しかし、彼らは自分たちの不従順の道によって、彼らが律法の最初と最後の原則について無知であること、また彼らが律法の中に描写された神のご品性について何も知らないことを表している。……不従順のうちに生きながら、自分たちが神の律法を理解していると考えた人々は、自分たちの無知を生活と模範によって明らかにし、自分たちが律法の規則の深さや意味について理解を持っていない事実を表している。

律法は、わたしたちに何が品性の正確と完全であるかについて教える教師であって、それはキリストの義を通して、わたしたちが神と生きたつながりをもつことができるためである。(サインズ・オブ・ザ・タイムズ 1894 年 10 月 22 日)

義の太陽からの光線

「しかしわが名を恐れるあなたがたには、義の太陽がのぼり、その翼には、いやす力を備えている。」(マラキ4:2)

光は祝福である。それは、恩を知らず、神聖を汚す、腐敗した世界に、おしみなく宝を注ぎ出す普遍的祝福である。義の太陽の光もこれと同じである。全地は、罪と悲しみと痛みという暗黒に包まれているから、神の愛の知識によって照らされなければならない。天のみ座から輝く光は、宗派、階級、地位のいかに問わず、どの人からも除外されてはならない。

希望とあわれみの使命は、地の果てまでのべ伝えるべきものである。望む者はだれでも、手を伸ばして神の力を自分のものとし、神と和らぎ、平和を得ることができる。異教徒も暗黒に閉ざされている必要はない。輝かしい義の太陽の光の前では、やみは消え去らねばならない。よみの力は、打ち破られたのである。(キリストの実物教訓 394)

主は、地に雲や雨ばかりでなく、まいた種が芽を出し、青い葉やつばみや花が表れるように、美しいほほ笑みの日光をも下さる。親愛なる両親がた、あなたの家庭と主のぶどう畑の中でのあなたの働きもそれとちょうど同じであるべきである。あなたは制限や譴責や矯正ばかりでなく、励ましや親切な言葉という心地よい日光一快活で、喜ばしく、嬉しい言葉をあなたの家庭や教会の中で与える必要がある。……

わたしたちはもっと日光のような両親、日光のようなクリスチャンを必要としている。ああ、さばき主が席につき、書物が開かれる大いなる清算の日には、どのようなことが表されることであろう！わたしたちはあまりにも自分たちで閉じこもっている。親切な励ましの言葉が差し控えられている。わたしたちに何の費用もかからない笑顔が、子供たちや、困窮者、抑圧され、勇気を失っている人に与えられていない。(原稿別ス4 巻 208,209)

世の悲しみの泣き叫びがわたしたちの周囲の至るところにある。その影がわたしたちに押し迫っている。そしてわたしたちはイエスのご臨在をいただいているのであるから、思いはすべての良い言葉とわざの用意ができていなければならない。このお方の聖霊の芳しい感化力は、活気づけ、励まし、他の人々の道を明るくするような言葉を語るために、わたしたちの思想を教え、導いている。(ビュー・アッド・ペナルド 1899年5月9日)

「黙示録 18 章の御使と 1888 年のメッセージ (Ⅷ)」

Reformation Herald Publishing Association

2. 第二の局面 - 後の雨

1888 年に、黙示録 18 章の御使が来たとき、彼は実際に彼のメッセージを受け入れた人々を表していました。その使命の始めから終りまで、彼は自らを真のアドベンチストとのみ同一視しています。ですから、預言されたふるいは、彼が背教した大多数と共にいるのではなく、忠実な少数と共にいることを見出すのです。預言は次のように述べています：

「あらしが迫って来るとき、第三天使の使命を信じると公言していながら、真理に従うことによって清められていなかった多くの者が、その信仰を棄てて反対の側に加わる。彼らは、世俗と結合し、その精神を抱くことによって、ほとんど同じ見方で物事を見るようになっていく。そして、試練が来ると、彼らはすぐに、安易で一般うけのする側を選ぶのである。……彼らは、以前の兄弟たちにとって、最も苦い敵となる。」(各時代の大きな闘争 下巻 378)

「しかし神は、まだバビロンの中にご自分の民を持っておられる。そして、……これらの忠実な人々を呼び出さ……なければならぬのである。そこで、この天使一天から下って来、栄光をもって地を照らし、力強い声でバビロンの罪を知らせる天使一によって象徴されているところの運動……〔の担う〕地上の住民に与えられる最後の警告なのである。」(各時代の大きな闘争 下巻 372)

「この迫害の時に、主のしもべたち〔黙示録 18 章の「運動」〕によって特定さ

れている「以前の兄弟たち」の信仰が試みられる。彼らは、神と神の言葉だけに頼って、忠実に警告を発してきた。」(各時代の斗争闘下巻 378,379)

大いなる叫びを響かせることは、わかるとおり、改革しなかった母「教会」とははっきりと区別されている小さい忠実な「残りの民」の責任になっています(教会への証 5 巻 211, 213, 524)。「神の契約の箱を担う」ために召されたこれらの忠実な少数について、「真理は彼らの手のうちで重要性が下がったり、その力を失ったりすることはない」と記されています。狭い道を旅している、この「以前の兄弟たち」の小さな「群れ」は、まず神の民だと公言している人々に彼らの不法を示し、「ヤコブの家にその罪を」示さなければなりません(牧師への証 411)。最後の警告を与えること、すなわち大いなる叫びは、彼らの働き最後の部分です。預言の例はこの出来事について、次のように説明しています：

「天の使命者たちが、来るべきさばきについて民に警告し、わたしたちの主イエス・キリストを通しての救いの喜ばしい知らせを提示しながら、あちらこちらと走っているのが見られるようになる。義の標準が高められる。神の御霊が人の心に働きかけ、その感化力に応じる人々は世において光となる。彼らは、ちょうどペンテコステの日に聖霊降下の後にしたように、自分たちが受けた光を他の人々に伝えるために、出て行くのが見られる。そして彼らが自分たちの光を輝かせるとき、ますます聖霊の力を受けるのである。地上は神の栄光によって明るくされる。

しかし、ああ、なんと悲しい光景であろうか!……このお方はご自分の聖霊を教会から取り去られ、それを感謝する別の人々にお与えになる。

大いなる光を受けてきた人々が、闇の中にいる人々の上にその光の輝くのを許さずに拒み、自分たちの時間と精力を形式と儀式を祝うために費やしていることほど、その光を感謝していないという大きな証拠はない。内なる働きの思想、心の必要な純潔が、考慮されていない。神との調和がないことは明らかになっている。光は、おぼろげになり、消えている。燭台は取り除かれた。(レビュー・アソド・ハラルド 1895 年 7 月 16 日)

「第三天使の大いなる叫びの時に、幾分かでも敵によって盲目にされてきた人々、自らをサタンのわなより十分回復してこなかった人々は、危険のうちにいるであろう。なぜなら、彼らが天からの光を識別することは困難であり、偽りを受け入れる傾向があるからである。彼らの誤った経験は、彼らの思想、決断、計画、勧告に色をつける。神が与えてこられた証拠は、光よりも闇を選ぶことによって自分たちの目を盲目にしてきた人々には証拠とならない。光を拒んだ後で、彼らは『光』と呼ぶ理論を作り出すが、主はそれを『彼ら自身のともしたいまつであり、彼らはそれによって自分たちの歩みを導く』と言われる。」(レヴィ・アト・ハルド 1892 年 12 月 13 日)

「キリストのみ事業が裏切られることであろう。これまで真理の光を持っていて、その祝福を楽しんできたが、それに背を向けた人々が、神の御霊を抑制しようと戦う。下からの霊を吹き込まれて、彼らはかつて自分たちが建てたものを取り壊し、すべての理性的で神を恐れる魂に、彼らは信用できないことを示すのである。彼らは真理と義をわがものとして主張するかもしれないが、彼らの精神とわざは、彼らが自分たちの主の裏切り者であることを証する。サタンの特質を、彼らは聖霊の働きと呼ぶ。」(レヴィ・アト・ハルド 1898 年 5 月 24 日)

「諸教会の中で神の力のすばらしい現れがあるはずである。しかし、それらは主の前に自らをへりくだらせず、告白と悔い改めによって心の戸を開いてこなかった人々を動かすことはない。神の栄光によって地を明るくすることの力の表れのうちに、彼らは自分たちの盲目のうちに、ただ彼らが危険だと思うもの、彼らの恐怖を引き起こすものしか認めず、彼らはそれに抵抗しようと身構える。主が彼らの考えや期待通りに働かれないので、彼らは働きに反対するのである。彼らは、『なぜ、わたしたちがこれほど長い間働きに携わっているのに、神の御霊を知らないことがあろうか』と言う。なぜなら、彼らが神のメッセージの警告と嘆願に応えず、頑固に『わたしたちは富んでいる、豊かになった、何の不自由もない』と言ったからである。」(レヴィ・アト・ハルド 1890 年 12 月 23 日)

タコライス (5人分)

タコスシェルの代わりにご飯を使って、具やソース、トッピングをのせていただくメキシコ風ビビンバ丼です。

〔材料〕

ソース	トマトの缶詰	2 缶 (800g)	
	にんにく	2 片 (みじん切り)	
	クミン	小さじ 2	
	塩	少々	
	しょう油	少々	
具①	豆腐	2/3 丁 (250g)	
	塩	小さじ 1/2	
具②	グルテンバーガー	2 缶 (400g)	油揚げで代用しても OK
	玉ねぎ	1 個	
	にんにく	2 片	
	塩	少々	
トッピング	しょう油	少々	
	玉ねぎ	1 個	
	レタス	1 個	
	トマト	5 個	
ご飯		4 合	

〔作り方〕

- 1) まずソースを作ります。トマトの缶詰を開けて鍋に移し、ある程度水分を飛ばしたところで、塩、しょう油、クミンを入れます。味はお好みで調節して下さい。
- 2) 最後ににんにくを入れ、一回沸騰させたら、出来上がりです。
- 3) 次に具を作ります。まず豆腐の水を切り、ミキサーでなめらかなクリーム状にして、少し強めに塩で味をつけます。
- 4) 玉ねぎとにんにくをみじん切りにし、フライパンに油をしいて炒めます。きつね色になる手前で、グルテンバーガーを入れ、塩としょう油で味つけをします。
- 5) 次にトッピングです。玉ねぎ、レタス、トマトをそれぞれ、同じように千切りもしくはみじん切りにします。
- 6) 炊き上がったご飯の上に、お好みで具やトッピングをのせ、最後にソースをかけて、出来上がりです！

教会プログラム (毎週土曜日)

安息日学校 : 9:30-10:45 (公開放送)

礼拝説教 : 11:00-12:00 (公開放送)

午後の聖書研究 : 14:00-15:00

【公開放送】 <http://www.4angels.jp>



聖書通信講座

※無料聖書通信講座を用意しております。

□聖所真理



お申込先 : 〒 350-1391 埼玉県狭山郵便局私書箱 13 号「福音の宝」係
是非お申し込み下さい。

書籍

【永遠の真理】聖書と証の書のみに基づいた毎朝のよみもの。



【安息日聖書教科】は、他のコメントを一切加えず、完全に聖書と証の書のみに基づいた毎日の研究プログラムです。



わたしは自分^{じぶん}のみ父^{ちち}を知^しっている

わたしは、わたしを創造^{そうぞう}された自分^{じぶん}のみ父^{ちち}を知っている
このお方^{かた}の律法^{りっぽう}とこのお方^{あい}の愛に
完全^{かんぜん}に調和^{ちょうわ}した者^{もの}となるように、
それは上^{うえ}にあるみ座^ざへとわたしを導^{みちび}いてくれる。

わたしはいつもこのお方^{ほご}の保護^{ほご}のうちにいることを知っている
わたしはこのお方^{いの}がわたしの祈^きりを聞^きいて下^{くだ}さることを知っている
わたしが悲^{かな}しいとき、このお方^{なみだ}はわたしの涙^{なみだ}をぬぐって下^{くだ}さる、
わたしは自分^{じぶん}の神^{かみ}がいつもそばにいて下^{くだ}さることを知っている。

わたしは輝^{かがや}く太陽^{たいよう}のうちにこのお方^みを見る、
わたしは空^{そら}にかかる虹^{にじ}の中にこのお方^{なか}を見る、
わたしは雨粒^{あまつぶ}が落ちるときにこのお方^おを見る、
わたしは雷^{かみなり}がなりとどろくときにこのお方^おを見る。

わたしのみ父^{ものごと}は物事^{かんぜん}を完全^{かんぜん}にしてくださる、
このお方^おは、ただあなたとわたしのために、それらを造^{つく}られた、
このお方^おはわたしの手^てをとり、わたしたちは共に^{とも}歩^{あゆ}む、
わたしは神^おを愛する、このお方^おはとしえにわたしのみ父^おなのだ。

—アディナ・ポール